

別紙様式3

平成28年度高山工業高等学校 第1回学校活性化連絡協議会 議事要旨

日 時	平成28年 6月 7日 (火) 9:00~10:30
場 所	高山市役所 203会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>岡田 賛三 飛騨木工連合会代表理事 (飛騨産業㈱代表取締役社長)</p> <p>籠場 和司 高山市立花里小学校校長</p> <p>川上 哲也 県議会議員</p> <p>北村 齊 高山商工会議所会頭 (日進木工㈱代表取締役)</p> <p>堰 美鶴 高山工業高等学校育友会会長</p> <p>中野谷康司 高山市立日枝中学校校長</p> <p>中村 健史 高山市教育委員会教育長</p> <p>西田 純一 高山市企画管理部長</p> <p>林 俊宏 高山工業高等学校後援会会長 (㈱林工務店代表取締役)</p> <p>水川 巧 高山工業高等学校同窓会会長</p> <p>(高校側)</p> <p>藤田 正昭 校長</p> <p>堀 修 教頭</p> <p>岩島 義則 教務主任</p> <p>室谷 伸治 工業部長・建築インテリア科主任</p> <p>新家 邦男 電気科主任</p> <p>川上 登 電子機械科主任</p> <p>境 信之 事務局・機械科主任</p>
議事概要	<p>1 高校の現状について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高山工業高校は飛騨地区に存続しなければならない学校であり、その学級数及び学科編成については、地元にとりだけ貢献しているかを基準に決めるべきではないか。 ・ 「地域にいかにか人が残るか」という観点で、高山工業高校の今後のあり方を県へ要望していきたい。 ・ 高山市では、地域に関心をもつ児童生徒が年々増えており、高校生へのアンケート調査によると、9割の生徒が地元へ愛着をもっていると回答した。 ・ サテライトキャンパスや卒業作品展での高校の取組のアピールが功を奏し、今年度の入試での定員充足につながったのではないかと。 ・ 市内の全ての中学校長が、高山工業高校は中高連携に大変努めているという認識をもっている。 ・ 高山工業高校の生徒が、地域の様々な場面で活躍している姿を市内の小中学生は日頃から見ると、よい影響を受けている。 ・ 高山工業高校の生徒たちからは、工業の勉強は面白いという声がいつも返ってくる。 ・ ものづくりに興味のある子供は、高山工業高校に入学して、自分の好きなことを見つけてほしい。

- ・ 全国的に配慮や支援の必要な生徒が増えてきており、危険を伴う専門高校の実習において、それらの生徒に対する教員配置や定数加配はありますか。
- 2 優秀な技術者の育成について
- ・ 飛騨学区唯一の工業高校として、地域のエンジニアリーダーを育成し、地域に人材を供給し続けることが高山工業高校の使命である。
 - ・ 高山工業高校の定員確保が、地元の技術者の確保にもつながってくる。現在、飛騨地域では、技術者不足のため仕事を受けることが難しい企業も少なくないと言われている。
 - ・ 高山工業高校の優良企業への就職実績の高さや、各就職先で卒業生が即戦力となれるだけの力を、高校3年間で育成していることを大いにアピールする必要があるのではないか。
 - ・ 現在、職人に憧れる人が増えている。地元の飛騨に残って一流の職人になった事例をアピールすれば、高山工業高校の人気の高まるのではないかと。「飛騨の匠」として、生徒や地元住民のブランド意識を高めることが必要である。
 - ・ 木工関連の人材育成を今後も継続してほしい。もし建築インテリア科がなくなったら、地元の建設業としては切実な問題となる。
- 3 今後の高校の活性化策等について
- ・ 「飛騨の匠」の育成をアピールし、高山工業高校に、広く県内外から入学者を集めてはどうだろうか。
 - ・ 高山工業高校から全国に情報を発信し、飛騨（高山）の地でものづくりに打ち込むことが人々の憧れになるようにしてほしい。自由な発想で、特区の構想を練ることも面白いのではないかと。
 - ・ サテライトキャンパスの取組も含めた「魅力ある高校づくり推進事業」は、高校生の起業家精神を育成する効果的な事業になると期待している。市としてもできる限り支援していきたい。
 - ・ サテライトキャンパスにおける商品販売の取組について、利益を原材料費に還元するなど、販売で利益を上げることの喜びを生徒に感じさせる仕組みを考えることが効果的ではないかと。
 - ・ 高山工業高校として、「魅力ある高校づくり推進事業」を通じて目指す具体的な学校の姿や、それを具現化する取組をより一層明確にして、協議会構成員それぞれの役割を膨らませていくことが必要である。
 - ・ 高山工業高校のOBや後援会の要望を反映した活性化策とすることが大切である。
 - ・ 普通科高校よりも、専門高校での少人数教育の必要性を高山工業高校から県に提案すべきではないかと。
 - ・ 高校における特別支援教育の観点も重要であり、配慮や支援の必要な生徒への指導体制における中高連携もより充実する必要がある。